

晩秋から早春へ

—(108.31)—

○ 佐伯史談会の動き

○ 四国・中国・バスの旅

恒例の秋の研修旅行、二泊三日のバスの旅。

春から準備していただきは、会員の皆さんから

も期待され、申込受付一時は六十五名まで伸びた

が、結局四十四名。予定通り松山→大三島→廣島

を経て、豊後水道・瀬戸内海・因幡灘を船で渡った。

最年長の寺島万治会員は「佐伯史談会懇親会

」と題し、支那文の紹介を寄せられたが、掲

載の余裕を今まで、羽柴繁平先生で表を

つけ、保管することとした。

十一月三十日 真禮朝出来 橋浜→松山(銀河泊)

二十二日 今治→大三島(音戸泊) 二十三日 岩島→岩

國→徳山→竹田津→宇佐→佐伯(事故なし)

○ 恒例年末集会

役員会をかね二十日十八日すし宴で開いた。

これが毎年のことながら年末反省会であり、研修

や奉仕へくされた会員のかつらいせん親睦会親

睦会でもあつた。出席二十六人。蓋会。

○ 年頭初歩式

一月二日、例年のように初歩式。今年度佐

伯市街周辺十分耕耘めぐり。十七名の方々が参加

した。全員自動車使用。

まず若宮八幡社参拝、方富司による祈願後

御神酒をいただき、鎌輪をつらぬて佐伯振櫓所、

五所明神、那岡山公園、長島天神とめぐり、疲

布台小学校、室剣山古墳、そして内町神明社、最後
が住吉神社で解説した。正午少し前であつた。

○ 直川史談会の堅田巡り

一月十六日 直川史談会は山下会長以下殆んど全

員堅田郷の史跡めぐりを実施、羽柴が案内役

を承つた。(マイクロバス・普通車二台使用)

まず下城遺跡、それから長良貝塚、宇山城址、そ

の下の本鳥半藏の比翼塚、堅田川の河道変更の工

事、舟坂・竹角の震世牌造改革事業の実情、堅田外
のいい見落ではなかつか。

市高所の潛龍塔から黒沢下入り、一気に墨沢外

人の見落とすませ、遂に帰り道に富尾神社、東

光庵(ヤマサカ)に桜ほまだ薔薇が盛かつた)――。

そこで竹角から長瀬原の千人塚を訪り、舟坂塚か

らも歩いて西尋のお塔→千代鶴父子の墓碑に参拝し

て、見落日程は終つた。(いよいよ研修会であつた。

二月一日 今治→大三島(音戸泊) 二月二日 岩島→岩

國→徳山→竹田津→宇佐→佐伯(事故なし)

○ 恒例年末集会

実日 参加者ニ十名近くの方、四五名を除く大多

数は佐伯史談会員であるが、ここにとりあげ、

夫次第である。

○ 弥生附の文化講演会

一月二十三日 弥生附教育委員会の主催、県立

佐伯鶴岡高等学校長井上十三郎先生の講

演会を、佐伯史談会が協賛後援した。

「弥生以前の一」と題する宇宙創成論をから

地球の生成、日本列島の成り立ちといふ点、地質の

ごとに萬度のお詫であった。しかし聽衆は熱心

に聞いた。(この日も半分は佐伯史談会員)。

○ 明石秋室の書芸について

佐伯高校の齊生先生の講演会、これに佐伯

市教育委員会と共催といつたところで、文化会館で

開いて盛會であった。齊生校長先生の大量的のチ

キスズは頭がさがつた。二月十一日実施。

秋室の詩と書は、えつとよつと賞揚される

べきである。

○ 招魂所・樺苗の植え

昨年歿靈祭の節、故の故友櫻、幸ひ吉木の苗

木が手に入つたので、三月六日年前に持より、

植込み作業には、次の九名の会員が当つた。

高木嘉宣、清田義雄、寺島万治、神田繁雄、

上野木郎、中畑、鎌田守雄、岩田善市

藤田三四夫(譲禁略す)

当日義文あり羽柴及苗の申込及火柱の準備に

当たる、平川氏も健康事情で参加出来ず、苗の引

取り、出勤者の世話をなどしてくれた。羽柴は三月

二十四日行つて見合。連日の雨で活躍よろしく見

え、すぐ火柱を改めている力もあつた。

あと火管理・養護を懸念ぬことが大切である。

○ その他もいろいろ

一日二十七日 伊勢父信「那馬合戦」論 聰講(多教)

一般会員に広く案内出来なかつた。

二月二十七日 大分探勝アーロウ会(会長兼子俊一氏)

バス二台で来られた。柵谷孔城址登山と羽柴、

小野寺案内、半数の白浪遺跡見学班と高木

清田が二相手。よい奉仕の一日であつた。

三月二十四日、弥生附祇園・橋迫家訪問、老先

生と春美先生でお詫をきく。